

Be-News

Beppu University, Beppu University Junior College Magazine

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部
真理はわれらを自由にする

NO.133
2026 AUTUMN

防災対策



クローズアップ別大生 研究室訪問 学びのトビラ 高大連携 地域連携

防災対策

セカンドステージへ

～未来を守る防災力～

2016年の熊本地震から10年という節目に起きた、2026年7月28日の熊本地震。大分県内でも強い揺れを観測し、連日続く関連ニュースに防災への緊張感が一気に高まっています。

改めてクローズアップされているのが、九州を横切る「大分一熊本構造線」、日本最大の断層帯「中央構造線」、そして沖合に横たわる「南海トラフ」の存在です。私たちが足をつけるこの大地は、常に巨大な地殻変動のリスクと隣り合わせにあります。

今回の特集テーマは「防災」です。一人ひとりの行動や判断を、未来の命と暮らしを守る力へとつなげるために、新たな防災の第一歩を探ります。



沖合で巨大地震と津波のリスクを抱える南海トラフと、日本列島を横断し大分へと連なる中央構造線。別府市はこれら地殻変動の影響下にあり、沿岸部の津波避難と直下型地震への二重の備えが不可欠です。

地震の震度・揺れの状況

震度	揺れの状況
0	人は揺れを感じない。
1	屋内にいる人の一部がわずかに揺れを感じる。
2	照明などのつり下げ物が、わずかに揺れる。
3	棚にある食器類が音を立てることがある。
4	つり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器は音を立てる。
5弱	物につかまりたいと感じる。固定していない家具が移動することがある。
5強	物につかまらなさと歩くことが難しい。食器や本が落ち、固定していない家具が倒れることもある。
6弱	壁のタイルや窓ガラスが破損し、落下することがある。耐震性の低い建物では、傾いたり、倒れたりする。
6強	多くの壁のタイルや窓ガラスが破損、落下。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。耐震性の低い建物では、傾いたり、倒れたりするものが増える。
7	揺れに翻弄される。耐震性の低い建物では、倒壊するものがさらに多くなる。

監修：気象庁



NEWS & UPDATE

2026 AUTUMN



発売初日には学生による店頭販売も実施

2026年3月、本学短期大学部食栄養科は、別府市いきいき健康部健康推進課および生活協同組合コープおおいたとの協働のもと「べっぷに恋する♪地獄めぐり弁当」を企画・開発し、期間限定で販売されました。

3月9日に開催された完成発表会では、共同開発に携わった関係団体の代表者による挨拶に続き、学生たちがメニューの特徴や開発の経緯について発表しました。弁当の



完成発表会では、別府市の阿部副市長をはじめ関係団体代表に、弁当の特徴を発表

TOPICS

別府の魅力を凝縮
～産学官連携による共同開発～

「べっぷに恋する♪地獄めぐり弁当」



Ver.1は、かまど地獄をイメージした釜めしなど

名称には、別府を代表する観光資源である「地獄めぐり」をイメージした要素が取り入れられており、地域の魅力を感じられる内容となりました。なお、名称の使用については、別府地獄組合の許諾を得て実現しました。

また、3月10日には、コープおおいた別府店（別府市鶴見）において、海陸留美教授と学生8名が「べっぷに恋する♡地獄めぐり弁当Ver.1」の店頭販売を行いました。

購入されたお客様からは温かい言葉が寄せられ、学生たちにとって大きな励みとなるとともに、食育活動や学修に活かされる貴重な経験となりました。

Ver.1は2026年3月10日から4月9日まで、Ver.2は2026年4月10日から5月9日まで、県内5店舗（別府市・大分市）にて販売



Ver.2は、血の池地獄をイメージした炎のブルコギなど

されました。今回の取り組みは、多くの新聞やメディアに紹介され、産学官連携により誕生した、健康と地域の魅力を兼ね備えた弁当の開発事例となりました。



完成発表会
開発に関わった学生と関係者が弁当を囲んで記念撮影

開発メンバー … 小野葵、佐藤莉亜、藤内輝、光長沙杏、吉松美優、渡辺涼香、左藤涼子、實崎琳花、廣田夏帆
指導教員 … 海陸留美 教授

Be-News NO.133 CONTENTS

23	22	21	20	18	16	14	13	10	3
インフォメーション	学園事業報告	地域連携	高大連携	祝創設20周年 別府大学吹奏楽団	卒業生インタビュー フジヨシ醤油株式会社 中島龍也さん 社会福祉法人庄内厚生館 三宮七星さん	クローズアップ別大生 丸尾智幸さん （文学部 史学・文化財学科 3年生） 池田早織さん （短期大学部 初等教育科 2年生）	研究室訪問 学びのトビラ 文学部 国際言語文化学科 講師 中矢由花	学科からのトピックス	特集 防災対策 セカンドステージへ 未来を守る防災力



次世代の防災力強化のためのシンポジウムに参加

DATE 2026 1 / 12

ゆめタウン別府で開催された別府市主催の防災イベント『☆マジで守ろう? 自分の命～防災DAY』に、短期大学部食物栄養科の学生が参加しました。当日は楽しみながら防災を学べる多彩な企画が行われ、本学ブースはビスコを用いた防災試食体験を提供し、非常時の備えを身近に感じてもらう機会を提案しました。

会場ではVRによる津波・土砂災害・地震の疑似体験、ドローン操作のシミュレーターなど最新技術を活用した防災学習の場が提供されていました。また、ゆうちゃみさん、イトブリッジさん、中島知子さんらのトークショーでは、防災グッズやハザードマップの重要性が語られ、防災意識を高めるよう呼びかけていました。

防災・減災に 取り組んでいます。



別府大学の
防災教育の
取り組みを
Pick Up!



全学生・全教職員を対象とした防災避難訓練

DATE 2025 10 / 29

大学祭の開催前の時期に、防災意識の向上を目的に全学生および全教職員を対象とした避難訓練を毎年行っています。2025年度の訓練は大規模地震の発生を想定し、地震発生の警報が鳴った後、構内放送で「ドアを開けて避難経路を確保してください」「エレベーターは使用しないでください」「ガスや火の元栓を閉めてください」と

いった安全確保のための呼びかけを次々とアナウンス。教職員の誘導のもと、学生・教職員はグラウンドおよび中庭へ避難しました。訓練後は防災意識の向上についての話があり、メールによる安否確認、緊急時の連絡体制の確認等も行われ、学生・教職員の防災意識を高めました。



地震体験車「ユレルンダー」で震度7の揺れを体感

DATE 2026 7 / 10

幼稚園教諭や保育士を目指す初等教育科2年生が、別府市消防本部で防災教育の重要性や災害発生時の適切な対応への理解を深める地震体験学習に参加しました。地震体験車「ユレルンダー」では、熊本地震発生時に別府市で観測された震度6弱、能登半島地震における震度7、東日本大震災の揺れなどを体感。立っていることさえ困難な

状況で、安全な場所への移動が容易ではないことを認識し、冷静な判断と適切な行動の重要性を学びました。「まず自分の身を守る」「揺れが収まった後は、靴を履いて避難する」といった助言を職員から聞かされ、子どもたちの安全を守る立場として、その役割と責任に対する理解を深めました。

災害ボランティア活動を各地で実践



国東市成仏地区へ24名の学生・職員が出動

DATE 2024 9 / 15

2024年8月30日に大分県に最接近した台風10号(サンサン)は、県内に甚大な被害をもたらしました。国東市でも60軒の住宅が床上・床下浸水などの被害に遭われ、本学では大分県社会福祉協議会からの要請を受けて、国東市成仏地区へ学生有志19名と職員5名による災害復興ボランティアを

派遣しました。現地では住宅の床下に流れ込んだ土砂の搬出や土のうの運び出しを実施。床下の狭い空間で懸命に土砂をかき出し、連携しながら復旧作業に取り組みました。

『もしもに備える、みんなで学ぶ 防災セミナー』開講



第1回 事前対策と避難所での衛生管理セミナー

DATE 2025 11 / 29

本学メディア教育・研究センターで、地域住民を交えて別府市との共催事業『防災セミナー』を開催しました。第1部は、別府市防災局の職員から『災害への備え』をテーマにした講演を実施。別府市街地の模型に鶴見岳噴火時の溶岩流の動きをプロジェクションマッピングで投影し、

目で見て体験しました。続く第2部では、看護学部の赤星琴美教授が講師を務めた『避難所における衛生管理と感染症対策』。アルコール量や口腔ケアの方法を実演解説しました。参加者からは「災害のリアルさが伝わってきた」「手指消毒に必要な適切な量を初めて知った」等の感想が寄せられました。

変わり果てた観光地で復興ボランティア

DATE 2024 9 / 4

同じく台風10号の被災に遭われた湯布院地区では、由布市社会福祉協議会からの要請を受けて学生有志15名と教職員3名の計18名が出動しました。普段は多くの観光客が訪れる観光地の被災風景にがくぜんとしましたが、30度を超える暑

さのなか民家に流れ込んだ土砂の搬出を実施。熱中症に注意しながら、水を含んで重くなった粘土質の土砂をかき出す復旧作業に汗を流しました。

第2回 災害時の「食」はどうすべきか

DATE 2026 1 / 20

「災害時の食について知る・作る」をテーマに、食物栄養学科の中村弘幸准教授によるセミナーを開講。防災の基本や非常時の衛生管理のポイントを学んだ後は、備蓄食品の試食、ポリ袋を活用した「バッククッキング」に挑戦。限られた資源でキーマカレー、ナボ

リタン、野菜スープ等の調理方法を習得しました。「実際に作ってみることで、家庭での備えを見直すきっかけになった」といった声が聞かれました。

10年前の熊本地震

別府大学と地域が共に乗り越えた

2016年の熊本地震の影響は熊本県内にとどまらず、震源から離れた大分県内でも広範囲にわたって強い揺れが観測されました。別府市では観測史上最大となる震度6弱を記録。市街地では建物の外壁亀裂や屋根瓦の落下、窓ガラスの破損といった物的被害が多発しました。幸いにも人的被害は比較的少なかったものの、道路の崩落や斜面崩壊などのインフラ被害が相次ぎ、一時的な停電や断水も発生するなど市全体が不安定な状況に陥りました。さらに、風評被害による観光客の激減など、温泉地・観光都市としての地域

経済や社会面にも深刻な打撃を残しました。地震当日の激しい揺れは別府大学にも及び、キャンパスでは石垣の損壊や校舎壁面の亀裂などが確認されました。そうした中、本学は安全確保と地域支援のため、地震発生直後より第二体育館を自主避難所として迅速に開放。避難所は本震が発生した4月16日に開設され、4月29日17時に閉鎖されるまでの約2週間、学生や近隣住民を幅広く受け入れました。度重なる余震への恐怖と先行きの見えない不安が広がる中、避難者の受け入れ規模は延べ763人に達しました。

混乱が続く避難生活の中にあって、別府大学の学生たちは高齢者の避難誘導を率先して手助けするなど、献身的に活動しました。地域住民と大学、そして学生同士が手を取り合い、互いに支え合いながら未曾有の危機を乗り越えたこの経験は、本学にとつて「共助」と地域連携の重要性を深く胸に刻む契機となりました。

10年前の熊本地震とは

2016年4月に発生した熊本地震は、14日の前震(M6.5)に続き16日に本震(M7.3)を観測。激しい揺れが九州全域を襲い、死者278名(災害関連死含む)、家屋損壊約20万棟の甚大な被害を及ぼした。断層の運動破壊により震源域が熊本から大分方面へと拡大し、日本の内陸活断層地震の中でも特異な広がりを見せた災害として記録されている。

熊本地震から始まった文化遺産保護への貢献

2016年の熊本地震を機に、本学は文部科学省採択のブランディング事業として「九州における文化遺産保護研究の拠点形成」に取り組みました。最先端の3Dレーザー計測や写真測量機器を導入し、被災文化財の記録・修復基盤を整備。熊本城の復旧現場では、石垣の3D測量に協力し、将来の復元を可能にする基盤づくりに貢献しました。

自治体間の枠組みを超えた「九州文化財保存推進連絡会議」や「九州文化財保存学研究会」を立ち上げ、シンポジウム開催等を通じて広域ネットワークを構築。3年にわたる文科省の事業終了後も大学独自の取り組みとして継続し、西日本屈指の研究拠点として、災害から地域の歴史遺産を守り継ぐ活動を牽引しています。



熊本城では石垣が崩落



別府市内各地で被害が発生



石垣キャンパス正門の石垣が崩壊



大学の研究室ではキャビネットが転倒



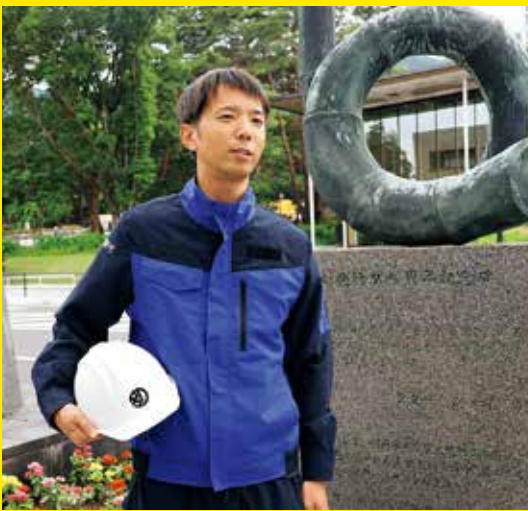
過去の教訓を未来へ

別府市の現在地と私たちの備え

熊本地震で
学んだことを
ムダにしない

別府市防災局防災危機管理課

長田 慎之介主任インタビュー



―― 2016年4月16日深夜に発生した熊本地震についてお聞かせください。

長田 私は救助隊として当直勤務中でした。発災直後から119番通報が鳴り止まず、エレベーター閉じ込めや家屋倒壊の現場へ急行しました。道中、不安な市民がサイレンを鳴らす消防車に「助けて」と手を挙げていた光景が今も焼き付いており、最優先の現場へ向かわねばならなかったため、すべてに即応できないものかしさがありました。翌朝、「コンビニのパンやおにぎりが完売していたのも印象深いです。

―― 避難所の様子はいかがでしたか。
長田 当時は避難所運営の経験がなく、市民も行政も手探りで混乱しましたが、最大で5,000人以上、

―― 留学生や外国人への対応は？

長田 「災害時多言語支援センター」を立ち上げ、通訳や情報提供を行っています。外国人住民を交えた防災食の試食アレンジ体験も実施しています。市の備蓄食はハラル対応を進めています。が、好みやアレルギーもあるため、各自で好みの食料を備蓄する「マイ備蓄」を呼びかけています。

地域の絆が未来を守る チカラになる

―― 別府特有の災害リスクは、どんなものがあるのでしょうか。

長田 海沿いの津波、山間部の土砂崩れ、河川の氾濫など多様なリスクを抱えています。「地震が起きたら線路より山側へ」「海沿いは高台へ」といったシンプルな避難行動を意識してください。また、認知度は低いものの鶴見岳・伽藍岳の火山活動リスクもあり、市では来年度の火山避難計画策定に向けて準備を進めています。

―― 若い世代に向けた防災啓発の取り組みはされていますか。

長田 従来の訓練は高齢者の参加が中心でしたので、昨年度は若者や女性をターゲットにした大型防災イベントを開催しました。人気タレントを交えた、わかりやすい企画内容にしたところ、1日で7,777人超が来場し、半数以上を女性や若年層が占めました。当日参加してくれた別大生や高校生から「今後の地区訓練に協力したい」との申し出もあり、確

―― 学生や若い世代に期待していることはあれば。

長田 発災時は自身の安全確保を前提に、若い行動力で高齢者等の避難支援や避難所運営に関わってほしいですね。避難所の共同生活を円滑にするためにも、日頃から地域行事や防災イベントに参加し、顔の見える関係を築いておくことが有事の助け合いにつながります。防災のアイデアがあれば、ぜひ危機管理課へ気軽に提案してください。

別府ちゃんを交えた 防災セミナーを開催

2026年7月7日、別府市扇山公民館で防災セミナー(扇山自主防災会主催)が開催されました。講師を務めたのは、今回お話を聞いた別府市防災局の長田 慎之介主任と、お笑いコンビ・エイトブリッジの“別府ちゃん”こと別府ともひこさん。防災気象情報から防災時の心構えまで、小中時代の同級生だった二人による息のあった解説に、地域住民ら約50人は熱心に耳を傾けていました。防災カルタや防災食体験なども交え、楽しく学べるセミナーになったようです。



福岡市民防災センター 体験レポート！



Vinculum Link
(ヴィンクルム)

福岡市民防災センターは、楽しみながら防災について学べる体験型施設。年間約13万人が訪れ、「見て、体験して、学ぶ」をコンセプトに、災害から自分の身を守るための知識や行動を学ぶことができます。同センターの防災体験に「Vinculum(ウィンクルム)」メンバーが挑戦してきました！

V

R

体

験

TRY 1

VR映像で地震の瞬間を追体験

VR体験では、緊急地震速報が鳴った直後から始まる激しい揺れを体感。さらに家具の転倒や建物の崩壊、煙の臭い、救助される場面までをリアルに再現されており、災害の恐ろしさを五感で実感することができました。家具の固定や避難経路の確保など、日頃からの備えと災害時の適切な判断が重要であることを学びました。

火

災

体

験

TRY 2

怖いのは「火」だけではない！

火災体験では、停電により暗くなった室内に煙が充満した状況を再現し、誘導灯を頼りに避難する体験を行いました。危険なのは火だけではなく、高温な煙を吸い込むと喉や肺を傷め、呼吸が困難になる恐れがあります。煙を吸わないよう「姿勢を低く」「鼻と口を布で覆う」「落ち着いて行動する」、その3つの意識が大切だと学びました。

消

火

体

験

TRY 3

声かけ優先で火災から命を守れ！

消火体験では、まず「火事だ!」と大きな声で周囲に知らせた後、消火器を使って映像の火元へ放水。消火を急ぐあまり、焦りや緊張から火元を狙い続けることの難しさを実感しました。火災時には冷静に状況を判断し、火が燃え広がった場合は無理に消火せず、「逃げる!」と周囲に避難を呼びかけ、自らの安全も確保することが重要です。常日頃から、消火器の設置場所や避難経路を確認しておくことの大切さを認識しました。

地

震

体

験

TRY 4

日常が一瞬で変わる震度7の地震を体感

地震体験では人が立ってられないほどの震度7の激しい揺れを体験。机にしがみつくながら精一杯で自分の身を守ったり冷静に行動したりする難しさを痛感しました。建物の倒壊や倒れてきた家具により圧死・窒息死の犠牲者が出る理由を実際の体験を通して理解することができました。

東日本大震災、そして10年前と今年7月に発生した熊本地震と、日本列島は常に災害と隣り合わせと言ってもいいかと思います。今回、私たちは福岡市民防災センターを訪れたことで、改めて防災に向き合ったうえで、正しい知識を身につけておくことが命を守る行動

につながることを学びました。いつ起きるかわからない災害に、私たちができることは日頃からの「備え」です。今回の体験レポートをご覧になって、皆さんが防災を意識するきっかけになると嬉しいです。



from Vinculum

学生広報Vinculumでは、別府大学の魅力を学生目線で発信しています。最新情報は、二次元コードを読み取ってInstagramからぜひご覧ください。

取材メンバー：池田 博貴(国経)、齊藤 小春(大食)、小林 花代(国経)、幸野 佑(人間)、太田 嘉昭(史財)、河野 真吾(史財)、吉田 翔貴(史財)、矢野 帆乃佳(国言)、羽田野 桜妃(国言)、緒方 多恵(国経)、白石 幸穂(史財)、谷山 果音(国言)、帆足 玲奈(国言)、河野 紗有希(国経)

保存版

もしもの時に
あなたの
身を守る！

防災マニュアル

別府市ホームページより、防災マップや津波ハザードマップが閲覧できます。
大学周辺や自宅付近などの海拔を確認し、近くの避難所への避難経路を確認しておきましょう。

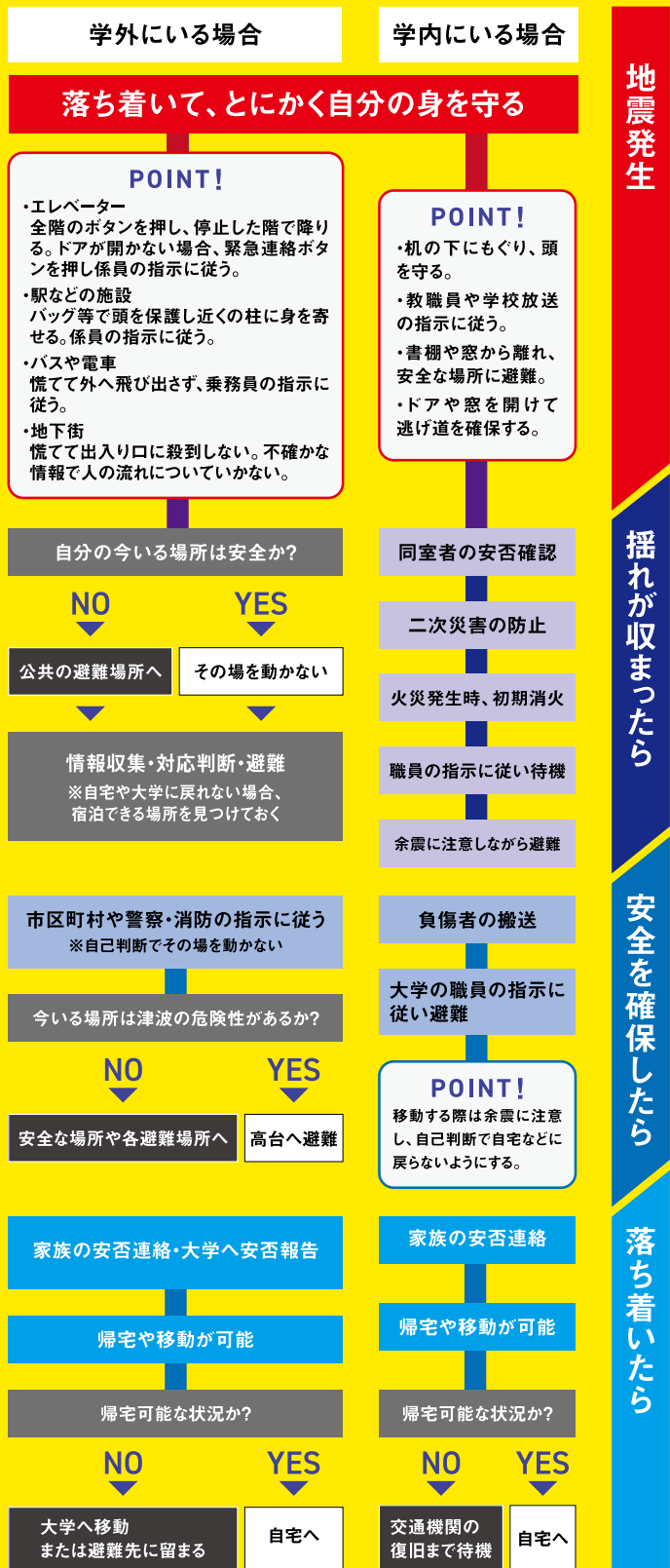


防災マップ



津波ハザードマップ

大地震発生時の避難行動フロー



地震発生

揺れが収まったら

安全を確保したら

落ち着いたら

非常持出品・非常備蓄品

災害発生時に最初に持ち出す「非常持出品」と、災害から復旧するまでの数日間を支える「非常備蓄品」を分けて用意しましょう。



- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ■ 水(目安:1人当たり1日3ℓ×3日分) ■ 主食(目安:1人当たり1日3食×3日分) ■ 毛布(目安:1人当たり1枚) ■ 貴重品 ■ 携帯電話・充電器 ■ 懐中電灯 ■ 電池 ■ 携帯ラジオ ■ 消毒液、ばんそうこう ■ 生理用品・化粧品 ■ 簡易トイレ ■ ティッシュ、ウェットティッシュ | <ul style="list-style-type: none"> ■ 常用薬・処方箋 ■ タオル ■ マスク ■ カイロ ■ 携帯ホイッスル ■ ライター ■ ナイフ ■ 衣類 ■ 軍手 ■ ヘルメット |
|---|---|

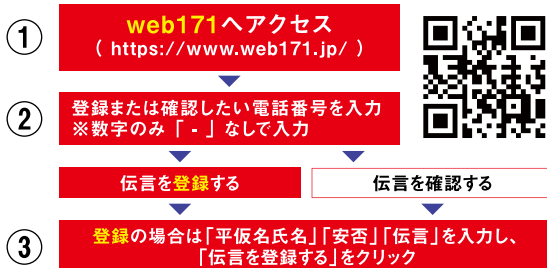
災害用伝言ダイヤル・伝言板

地震など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービスです。

電話 災害用伝言ダイヤル



WEB・インターネット 災害用伝言板



国際言語・文化学科

アニメ制作体験ワークショップを開催しました

作画からアフレコまで本格的なアニメ制作を体験

2026年8月20日・21日の2日間、高校生を対象とした「アニメ制作体験ワークショップ」を開催し、高校生8名と在学生7名が参加しました。本学国際言語・文化学科芸術表現コースの学びを体験してもらうことを目的に実施され、講師は「忍たま乱太郎」「ドラえもん」「ちびまる子ちゃん」などの作画に携わった甲元隆則准教授が務めました。

初日はアニメーション制作に関する講義の後、約30秒の作品制作に挑戦し、参加者は在学生のサポートを受けながら174枚の原画を手描きで作成しま

した。2日目はスタジオでアフレコ体験を行い、キャラクターの個性や場面の雰囲気意識しながら収録に取り組み、音声表現の重要性について学びました。さらに、甲元准教授から制作現場での経験談や人気作品にまつわるエピソードが



自分で描いたアニメーションに声を吹き込むアフレコ体験にも挑戦！

紹介されました。最後には完成作品の上映会が行われ、自分たちの原画や声の一つの作品として形になったことに大きな達成感を味わいました。

参加者にとって、アニメーション制作の魅力や奥深さを体験するとともに、在学生との交流を通じて大学での学びや学生生活への理解を深める貴重な機会となりました。



「忍たま乱太郎」「ドラえもん」などのアニメ制作に携わった甲元准教授が指導

発酵食品学科

【発酵食品学科×つけもの王子×マーク・パンサー】漬物の製造実習を開催しました！

マーク・パンサーさんと学ぶ“オリジナル漬物”の製造に挑戦！

2026年6月16日、36号館食品衛生学実験室にて発酵食品製造実習が行われ、1年生20名が参加しました。「つけもの王子」として親しまれている三浦好徳さんを講師にお迎えし、キムチとぬか漬けづくりを体験しました。

今回は特別ゲストとして音楽ユニットglobeのメンバーで、別府市ツーリズム大使でもあるマーク・パンサーさんにもご参加いただき、学生と一緒に漬物づくりに挑戦しました。

キムチの製造では、辛味や甘味、うま味のバランスを班ごとに工夫しながら、

オリジナルの味を追求しました。試食では「もっと甘みを強きたい」「この辛さがちょうどいい」など、学生同士で活発に意見を交わす姿が見られました。

ぬか漬けの製造では、マークさんが栽培された米の米ぬかを使ってぬか床を仕込み、学生は好みの調味料や野菜を選んで自分だけの“オリジナル漬物”を完成させました。

終始賑やかな雰囲気の中、学生にとって発酵の魅力を身近に感じられる貴重な学びの時間となりました。

No 02

好きな野菜でオリジナルぬか漬けを製造中！

特別ゲスト globeメンバー/別府市ツーリズム大使 マーク・パンサーさん

世界にひとつだけ！オリジナルキムチとぬか漬けの製造に挑戦しました！



No 03

別府大学が拓く地域連携と人材育成

2026年7月25日・26日の2日間、32号館において「九州沖縄日本遺産フォーラムー別府大学が拓く地域連携と人材育成ー」を開催し、延べ300名が参加しました。本学は文化財行政を担う人材を九州・西日本各地へ輩出しており、日本遺産「鬼が仏になった里『くにさき』」との連携を通じて、西日本の私立大学で初となる「日本遺産サポーター大学」に登録されています。フォーラムでは、基調講演や九州各地の日本遺産に関する事例発表を通して、地域振興と人材育成の取り組みや課題、今後の展望について理解を深めました。また、体験型ワークショップや展示解説も実施。パネルディスカッションでは、地域社会との連携や文化財の保存・活用について活発な意見交換が行われました。



卒業生2名も参加！「日本遺産」「地域振興」「人材育成」をテーマに意見交換が行われました

史学・文化財学科

九州沖縄日本遺産フォーラムを開催しました

No 04

先輩から学ぶ医療ソーシャルワーカーへの第一歩

2026年7月16日、34号館心理学実習室において福祉施設機関でソーシャルワーク実習を行う3年生15名を対象に実習指導者による講義を実施し、業務理解や実習への学びを深めました。

講師には、社会医療法人帰巖会みえ病院地域連携 室長代行右田亨さん（本学卒業生）を招き、患者や家族の思いや価値観に寄り添い、一人ひとりの意思や目標を尊重しながら支援することの大切さが伝えられました。

多様な人生観に触れながら課題解決を支援できることなど、仕事のやりがいについても紹介され、学生たちは、医療ソーシャルワークへの理解を深めるとともに、支援者としての姿勢も学びました。



患者さんとのエピソードを聞いて人の“こころ”を学びました

人間関係学科

実習指導者による講義を実施

No 06

安部日出町長講演とフィールドワークを通して持続可能な地域づくりを考える

『SDGs未来都市』に指定されている日出町をテーマに持続可能な地域づくりを学ぶプログラムに取り組み、2026年7月22日に成果報告会を開催しました。

学生たちは4月の安部徹也町長による講演や6月の風力発電所・山田湧水などへのフィールドワークを通じ、地域の課題や魅力を調査しました。

成果報告会当日は、安部町長をはじめとする日出町役場の関係者や履修生約100名が参加する中、6グループが「脱炭素社会の推進」や「水資源の活用」「空き家を利用した移住支援」など多角的な視点から提言を行いました。

安部町長からは提言への高い評価と温かい講評が送られ、学生にとって地域課題を自分事として考える貴重な学びの機会となりました。

「私たちができるSDGs」末岡姫夏さん（3年）、佐藤花月さん（3年）、佐藤李彩さん（3年）成果報告の様子



台湾の食文化を学ぼう！～現地での調理実習に挑戦～

2年生10名が2026年3月7日から4泊5日で台湾を訪れ、「グローバル食文化研修I」を実施しました。

現地の歴史や食文化を体験しながら学びを深めることを目的とした研修で、パイナップルケーキや家庭料理、小籠包の調理実習に挑戦し、日本ではあまり使われない五香粉を使った本格的な料理も味わいました。

十分では願い事を書いたランタンを空へ飛ばし、九份では雨の中で幻想的な街並みに感動しました。

学生たちは夜市や朝市で台湾の生活文化に触れ、自由行動では台北の魅力を存分に楽しみ、台湾の人々の温かさや豊かな食文化に触れ、多くの学びを得た研修となりました。



本格的な中華料理に挑戦！

No 05

令和7年度グローバル食文化研修Iを実施しました

食物栄養学科

国際経営学科

「SDGsのこともっと知ろう！」もっと考えよう！活動成果報告会を開催

文学部 国際言語・文化学科 講師
中矢 由花
Yuka Nakaya

研究室訪問
学びのトビラ
Vol.25

別府大学の学びの最先端をレポートします。

プロフィール

愛媛県松山市出身。お茶の水女子大学大学院修了。専門は日本古典文学(近世)。洋の東西を問わず伝統的なものに惹かれ、能・歌舞伎などは鑑賞するだけでなく、自分でも日本舞踊(藤間流)やバレエを習う。幼少期から美術に親しみ、絵画の鑑賞は文学の読解にも通じると考え、文学研究や教育に絵画の視点を取り入れる試みを行っている。好きな画家はヒエロニムス・ボス、ピーテル・ブリューゲルなど。2025年に着任。



絵画も文学と同じく読解することで作品理解が深まります。絵画化された『源氏物語』を“読んで”みてください。

「夢の浮橋」から始まった研究の旅、一首の和歌との
出会いを原点に「源氏物語」と伝統文化の広がりを追求する。

近世には、出版技術の発展という文化上の革命が起こり、本が広く流通するようになりました。それにより読者が増え、さまざまなジャンルの文学作品が生まれ多様化します。

一方で、「売れるパターン」ができていく点は、今のエンタメや出版ともよく似ています。また、日本は外から入ってきた文化を上手に取り入れて、自分たちなりの形に作り変えるのが得意です。近世文学には、そうした柔軟さがよく表れています。現実のつらさを「浮き世」として受け止め、笑いに変えながらたくましく生きる人々の姿は、とても人間らしく魅力的です。

近世文学の魅力

昔の人たちの感じた面白さを、できるだけそのまま未来へ伝えていきたい——そんな思いで研究に取り組んでいます。

実は、平安時代と現代をつなぐ重要な役割を果たしているのが「近世文学」です。読本や国学書などを手がかりに、人々がどのように古典を読み、楽しんでいたのかを考えています。

研究テーマは「源氏物語」

みなさんが「古典」と聞いたとき、多くは平安時代の作品を思い浮かべるのではないのでしょうか。私は、その古典がどのようにして現代まで受け継がれてきたのかに興味をもち、特に『源氏物語』を中心に研究しています。

ドキュメンタリー映画『小学校～それは小さな社会～』から学ぶ

2026年7月1日、「初等教育科児童学会講演会」を開催し、初等教育科1・2年生および教職員あわせて約330名が参加しました。

国内外で高い評価を受けるドキュメンタリー監督・山崎エマ氏を講師にお招きし、講演に先立って山崎監督作品『小学校～それは小さな社会～』(2023年制作・99分)を鑑賞しました。

上映後、山崎監督にはオンラインでご参加いただき、本作品を制作したきっかけや、小学校教育に対する印象が制作前後でどのように変化したかについて

短期大学部 初等教育科

映画監督山崎エマ氏を講師に迎え、
初等教育科児童学会講演会を開催

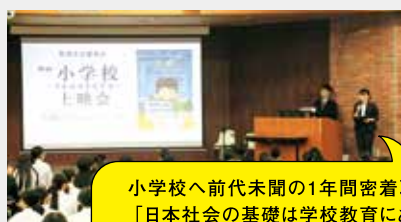
てお話しいただきました。また、約700時間に及び撮影や約4,000時間にわたる学校との関わりなど、制作の舞台裏も紹介されました。さらに、教員を目指す学生に向けて、教員という仕事のやりがいや学校の役割について多角的に考えてほしいとのメッセージが送られました。

質疑応答では「なぜ1年生と6年生に焦点を当てたのか」「海外では日本の教育がどのように受け止められているのか」などの質問が寄せられ、山崎監督は一つひとつ丁寧に丁寧に回答されました。

本講演会を通して、学生たちは教育

現場を多角的に捉える視点を養うとともに、学校教育の意義や教員の役割への理解を深めました。特に教育実習を控えた2年生にとっては、今後の学びへの意欲を高める貴重な機会となりました。

意欲的な質問が多く寄せられました!



小学校へ前代未聞の1年間密着取材! 「日本社会の基礎は学校教育にある」という監督の信念から生まれた作品

高校生のとき、何気なく古語辞典を見ていて出会った藤原定家の和歌「春の夜の夢の浮橋とだえして峯に別る横雲の空」が、私の古典研究の出発点です。「夢の浮橋」という言葉の美しさに心をひかれ、それだけで『源氏物語』全体が思い起こせることに感動しました。

研究のきっかけ

『源氏物語』の世界は今も広がり続けています。こうした広がり、大きさと奥深さに触れることが、この研究の面白さです。

源氏物語享受の研究

特に重点的に研究をしているのが『源氏物語』とその享受です。『源氏物語』は、ただ読むだけの作品ではありませんでした。近世では、小説の題材になったり、わかりやすい解説や現代語に近い形で書き直されたり、さらにはパロディとしても楽しまれていました。今という「二次創作」に近い感覚です。

また、絵画や香道、能や歌舞伎にも取り入れられ、いろいろな形で広がっていきました。現代でも翻訳されて海外でも多く読まれ、他の文学作品と比較されたり、それを「逆輸入」したりと『源氏』の世界は今も広がり続けています。こうした広がり、大きさと奥深さに触れることが、この研究の面白さです。

～ Other sides of Yuka Nakaya ～



1 趣味の絵画鑑賞の旅ではヒエロニムス・ボスの作品を追いかけています。スペインでは、ボスを受したフェリペ2世の夏の離宮であったエル・エスコリアルも訪れました 2 プタベストの写真です。ハンガリーは温泉大国で、プタベストにも素晴らしい温泉がたくさんあります。思えばこの頃から温泉の街にご縁があったようです 3 美術鑑賞の旅ではイタリアを訪れることが多いです。リグリア海に面した港町ラ・スペツィア、別府湾の眺めと似ていませんか? 4 これまで訪れた中で、最も心惹かれ続けているのがポルトガルです。土地の魅力はもちろんのこと、各地に残る日本との交流の歴史にも深い感動を覚えました。大分県にも南蛮文化を感じられるものが多く、親しみを感じています。写真は、昨年、白枠で見た南蛮図屏風(のレプリカ)です。



しながら、古典の魅力を次の時代へ伝えていきたいと考えています。

No 09

おにぎりづくりで
食の楽しさを伝える

2026年6月9日、別府大学附属幼稚園において、2年生25名が、3歳児25名を対象に「おにぎりづくり」体験を実施しました。本取り組みは、食育実践プログラム「もぐハピこどもキッチン」の一環として行われ、食の大切さや楽しさを伝えることを目的としています。

食育紙芝居の読み聞かせや、学生手作りのパネルを使ったおにぎりの材料や作り方の説明を行いました。その後、園児たちは学生のサポートを受けながら、鮭や昆布などの具材を使って思い思いのおにぎりづくりに挑戦しました。

完成後には学生から手作りのメダルやお手紙が贈られ、園児たちはお手製のにおにぎりを嬉しそうに味わっていました。

「もぐハピこどもキッチン」
附属幼稚園と連携した食育活動を実施

短期大学部 食物栄養科

どんなおにぎりができるかな?



No 08

患者さんから学ぶ
看護実践の第一歩

2026年7月6日より、看護学科2年生による「基礎看護学実習Ⅱ」を実施しました。本実習は、学生が初めて実際の患者さんを受け持ち、看護過程の展開や日常生活援助を行う本格的な臨地実習です。

学生たちは実習に向けて、講義や演習を通して患者情報のアセスメントや看護計画の立案について学び、ペーパーペイシエントを活用した学習では、疾患や症状だけでなく、患者さんの生活背景や思いにも目を向けながら理解を深めました。

また、援助技術の演習では、技術の習得に加え、患者さんへの声かけや関わり方についても考えながら実践して準備を行いました。

実習初日は緊張した様子も見られましたが、患者さんから学ぼうとする意欲にあふれていました。

看護学科
「基礎看護学実習Ⅱ」を実施

初めての
実習を実践!
看護師目指して
頑張ります!



Closeup! 別大生

クローズアップ

日々の授業の様子を教えてください

遊びや製作の授業が好きでした。製作で意識したのは、どうしたら可愛くなるか、関心を持ってもらえるかです。子どもが「やってみたい」と思えるように、見た目の工夫や第一印象を大切にすることが重要だと感じました。指導案づくりは苦手でしたが、工夫して乗り越えました。授業は一見保育に関係ないように見えても、すべてつながっていると感じます。

どんな勉強法を実践していましたか？

ひたすら赤シートを使って「見て覚える」勉強法です。グループで集まって勉強するんですが、隣で友人が小声でつぶやく内容を聞いて耳で覚える、なんてこともありました。3〜4人で一緒に行動し、空きコマには学校を出て遊びに行くことも。どこかにいなくても、ただおしゃべりしているだけで楽しい、充実した時間を過ごしました。



言葉の授業風景。
封筒でバベットづくり



週1で練習に励む
ハンドベルの仲間と♪

短期大学部
初等教育科 2年生
いけだ さおり
池田 早織さん
(大分県立大分雄城台高等学校出身)

ハンドベル研究会も積極的に活動しました

ハンドベルは間違えると目立つので、結構な緊張感があります。だからこそ、音がきれいに重なった時は嬉しいんです。メンバーのみんながとても仲良しで、一緒に入った子は誰も辞めていないんですよ。保育園や地域のイベントで、みんなが知っているアニメの曲を演奏すると、子どもたちがキラキラした目で、笑顔で歌ってくれるのが印象的でした。

保育士志望の学生さんへ伝えたいこと

私は小学校のときから保育士への夢を持っていました。オープンキャンパスで「ピアノの練習がしやすいそうだな」と感じたのが、進学の決め手です。ピアノの数が多く、苦手な人も焦らずできるようになるので安心してください。この2年間は、本当にあっという間でした。実習は大変だけど、それ以上に楽しいことがいっぱい待っていますよ！

文学部
史学・文化財学科
3年生
まるお ともゆき
丸尾 智幸さん
(長崎県立佐世保南高等学校出身)

民俗学研究的楽しみや魅力とは？

官学連携の取り組みとして、先日は杵築の山香・上地区を訪れました。聞き取りの内容は報告書にまとめ、地域の人に渡したり、国会図書館に寄贈したりしています。自分の名前も掲載され、形に残るのが嬉しいですね。民俗学は、本に載っていないデータを探す学問です。データに残っていない文化を自分たちで調べ、残していくことは、とてもやりがいを感じます。

民俗学研究室の室長になり実感すること

多くの人から聞き取りをする中で、コミュニケーション力が向上しました。相手が話しやすいよう、農家さんなら育てている作物の話、主婦の方ならご飯についての話から始めるなど、工夫しています。現地調査ではお茶やお菓子、手作りのお漬物が出てきたり、軽トラの荷台にのせてもらったり。普通ではあまりない経験ができるのも楽しいですね。

入学のきっかけを教えてください

私は長崎の佐世保出身です。小さい頃から妖怪アニメが大好きで。民俗学を学びたいと思い、九州で民俗学を勉強できる学校を探して本学を見つけました。仲の良い先輩が在学していたこともきっかけのひとつですね。民俗学では聞き取り調査・フィールドワークが大切です。現地に赴き、口づてに伝わる話、噂話などを住民の方に直接聞いています。

現地調査（フィールドワーク）はどんな様子でしたか

現地の方には、暮らしの文化や食事、行事、信仰、仕事、老人会や青年団の組織の話などあらゆる話を聞きます。もちろん、妖怪の話も。大分は、たまにカッパの話が出てきますね。山・海・町など地理的な違い、農作物、食事、信仰などによっても聞ける話が異なっています。事前に市史などで調査しますが、実際に聞かないとわからないことがいっぱいあります。



趣味はカラオケ
仲間とよく利用します



調査内容をまとめた冊子
現地の方にも喜ばれています

友人との時間は宝物
あっという間の2年間でした

まだ記載されていない
現地の話を収集し残すおもしろさ



発

酵食品学科を卒業した中島龍也さんが、地元・別府の味噌醤油蔵であるフジヨシ醤油株式会社へ就職して今年で3年目を迎えました。同社の看板商品であるカトリア醤油は、カツオ出汁の旨みとまろやかな甘味を持つ九州醤油らしい特徴を持ち、全国にファンを持つ人気醤油でもあります。「子どもの頃から親しんできた醤油で、刺身には欠かせない味です!」

全国でも珍しい本学の発酵食品学科の存在を知ったのは、高校時代に地元大学への進学を考えはじめた時でした。微生物の力を借りて味噌・醤油・酒など日本独自の食文化を造り出した発酵技術の先進地が大分県だと知り、進学を決断しました。

「入学後は高校で習った化学を復習するような授業から始まり、次第に専門的な知識を学ぶようになり、興味が高まってきました。コロナ禍でリモート授業が中心でしたが、実験で大学へ足を運ぶことも多く、『夢米棚田プロジェクト』での田植え体験、ジビエ狩猟サークルでジビエ料理をふるまったりと楽しい思い出ばかりです」

フジヨシ醤油へ就職後は、念願の



友人と行った佐賀県・吉野ヶ里遺跡。牡蠣を食べに広島への2泊3日ドライブ旅行など、楽しい思い出も豊富

製造部へ配属。塩分濃度の分析から仕込み、充填、ラベル貼り、袋詰めなど、日々作業に励んでいます。大豆や米を蒸して糀から手作りする、昔ながらの製法にこだわり続けている同社ですが、「長年にわたって受け継がれてきた伝統の味を守っていきたい」と、中島さんは力を込めて話します。

別府の食文化を支える一人として、日々の仕事に向き合っています。



田植えで汗を流した『夢米棚田プロジェクト』では、「食」に対する思いを再認識しました。



J O B

フジヨシ醤油株式会社
製造部

N A M E

なかしま りゅうや

中島 龍也さん

食物栄養科学部 発酵食品学科
2023年3月卒業
(大分県立別府翔青高等学校出身)

発酵文化が根付く大分で
老舗の伝統技を未来へ紡ぐ

卒業生インタビュー こんにちは先輩!!

J O B

社会福祉法人 庄内厚生館
管理栄養士

N A M E

さんのみや ななせ

三宮 七星さん

短期大学部 食物栄養科
2022年3月卒業
(宮崎県・日章学園高等学校出身)

アスリートで培った情熱を糧に
“食”で健康を支える管理栄養士へ

庄

内厚生館の管理栄養士として勤務する三宮七星さんは、中高一貫のスポーツ強豪校・日章学園でプロゴルファーを目指していた異色のキャリアの持ち主です。国体にも出場経験があるのですが、同校調理科で調理師免許を取得する中で「栄養面から人を支えたい」と考えるようになり、卒業後は本学食物栄養科に進学。知識と技術に磨きをかけ、現職場への就職を果たしました。「障がいのある児童や成人を支援・養育する木埋学園の給食室に配属され、最初の3年間は子どもを対象にした栄養ケアに取り組みました」

体重、身長、体調などの変化を観察しながら、時には現場の職員や子

どもたちとの会話を通して、個々に合わせた献立を考えます。管理栄養士の資格を取得した今年の春からは、重度の障がい者も含む成人施設の担当になりました。なかには意思疎通が困難な利用者もありますが、根気強く観察し、気持ちをくみ取ることが大切にしているそうです。

「短大を卒業後、3年間の実務経験を経て挑戦した管理栄養士の国家試験は、合格率の低い難関資格でした。仕事



現在もゴルフは継続。大分合同新聞社主催のコンペでは常連で、毎回素晴らしい成績を残しています。

から帰って5時間、さらに翌朝も1時間勉強してから出勤するなど大変でしたが、食物栄養科が卒業生を対象にした支援講座を開講していただき、大きな励みになりました」

日々の仕事から、「健康を支えることが私に与えられた使命」と満面の笑顔で話す三宮さん。ゴルフで培った粘り強さが、食を通じて人に寄り添う喜びを実感しているようでした。



休日は友達とのカフェめぐりが楽しみ。宮崎の日章学園時代のクラスメイトと出かけることもあるそうです。

別府大学吹奏楽団 響きあう心で紡いだ

Interview



安部えつ子 准教授

(短期大学部初等教育科)

別府大学吹奏楽団音楽監督・指揮者。大分市出身。国立音楽大学クラリネット専攻を卒業後、渡仏。複数の有名音楽大学で学んだ後、本学に勤務。2013年より別府大学吹奏楽団監督を務め、九州吹奏楽コンクールでは大分県代表として14年連続出場に導く。

別府大学吹奏楽団との出会いは、20年前の創設記念演奏会でした。当時、留学から戻ってフリーランスで活動していた私に、辛島光義先生から「足りないパートを手伝ってほしい」と声をかけてくださったのが始まりです。その後、ご縁が重なって2013年から後を継いで音楽監督を務めています。

就任にあたり、中高生の指導経験はありましたが大学生を教えるのは初めてだったため、指導のさじ加減には手探りの部分もありました。大人の二歩手前である大学生に対し、どこまで主体

団員が主役となり、共に育ち合う環境づくりを

性任せ、どこまで口を出すべきなのか……。しかし学生たちは、練習姿勢はもろろん演奏会の企画立案から事務的な作業に至るまで、驚くほど自分たちでやり遂げてくれました。演奏会のプログラム決めなども、私が一方的に指示するのではなく、学生が出した希望曲をすり合わせ、私は曲順や組み合わせのアドバイスを添える程度です。自分たちで決めることで、責任と意欲が強まっています。私が団員に常々伝えているのは「楽譜や楽器など演奏に必要な道具を大切に」「そして「常に思いやりを持った行動をする」という2点です。合奏は小さな社会です。困っている団員には寄り添い思いやりの気持ちを持つ

これまでの演奏会で印象深かったのは、まず思い浮かぶのが就任1年目に約30人の団員と僅か4ヶ月の準備期間でコンクールに出場したこと。楽団員の頑張りによって倒されました。そして、何といっても創立20周年記念定期演奏会は最高でした。歴代卒業生とレスピーギ作曲の大作「ローマの松」を演奏し、先輩方が驚いでくれ

て、ひとつの楽曲を作ることが、成長につながると指導しています。団員たちも素直にその言葉を受け止め、それが演奏に反映されるのです。

かけがえのない宝物を見つけてもらいたい

演奏活動を通じて仲間たちと感動を分かち合う時間は、一人ひとりの人生を豊かに支える力になります。20周年を新たなスタートラインと考え、仲間や地域と共に育んできた豊かな音色を未来に繋いでいきたいですね。

2005

別府大学吹奏楽団 創設
音楽監督 指揮者に辛島光義先生が就任

2006

大分県吹奏楽フェスティバル初出場
大分県吹奏楽コンクール初出場(金賞 県代表)
第1回定期演奏会開催(客演演奏に須川展也氏を迎える)

2008

大分県アンサンブルコンテスト初出場【クラリネット四重奏(金賞 県代表)】
第63回国民体育大会「チャレンジ! おおいの国体」、第8回全国障害者スポーツ大会「チャレンジ! おおいの大会」総合開閉会式で演奏

2013

辛島光義先生退任
音楽監督・指揮者に安部えつ子(初等教育科准教授)が就任

2017

九州吹奏楽コンクール10回出場
九州アンサンブルコンテストにて金賞受賞(クラリネット五重奏)
第22回遊花祭(日田市)出演

2018

第18回きつき自動車学校セーフティフェスタ出演

2019

九州吹奏楽コンクールにて金賞受賞(指揮: 安部彰氏)
第34回山香ふるさとまつり出演(山香中学校吹奏楽部合同演奏)

2021

九州吹奏楽コンクールにて2大会連続金賞受賞(指揮: 安部えつ子)

2022

大分県吹奏楽コンクール10大会連続県代表
大分市立吉野中学校 依頼演奏

2023

大分県吹奏楽連盟創立60周年記念式典にて表彰される(九州吹奏楽コンクール13回出場)
九州アンサンブルコンテスト10回出場
大分銀行創立130周年記念事業～旅するコンサート(別府市 中津市)出演
辛島光義先生ご逝去

2024

大分市立津留小学校 依頼演奏
第24回ゆふいんこども音楽祭 ～むかしむかしの～出演

2025

なおり園祭(佐伯市)出演
第15回定期演奏会開催

2026

九州アンサンブルコンテストにて3大会連続金賞受賞
創設20周年記念 第16回定期演奏会開催
第63回大分県吹奏楽コンクールにて金賞・県代表

その他の定期的活動

学内行事(入学式、卒業式、学園祭)
吹奏楽フェスティバルin別府
中学生 他大学との合同練習
明豊高等学校野球部応援演奏(甲子園球場)など

国際経営学部
国際経営学科 3年
佐藤 李彩 さん
(トランペット担当)



客席と一体になって 響かせた節目の定期演奏会

20年の節目となる大切な年の楽団長に選出された時は、重責を感じました。それでも心強い二人の副部長、そして団員全員と支え合いながら楽団運営に取り組んでいます。団長として学んだものは、人に寄り添う難しさと大切さです。幹部が一方向的に決めるのではなく、全員の意見に耳を傾け、民主的に楽団の方針を決めるプロセスを大切にしています。

20周年記念定期演奏会は、現役生と先輩方合わせで約100名でステージに立ちました。私はトランペットのソロを担当し、パンダ隊として2階席へ移動しながら客席のすぐ近くで吹くという演出にも挑戦しました。お客様の笑顔の間近に感じられ、一生の宝物となる経験でした。

別府大学吹奏楽団は、演奏技術の向上を目指すだけでなく、仲間や地域と温かくつながる場所でもあります。大人数でひとつの音楽を作る吹奏楽は、周りの音を聴き、お互いに気遣い合いながら演奏することで、「協調性」や「コミュニケーション力」も育みます。これは社会人になってからも役立つ貴重な経験です。少しでも興味のある方は、ぜひ入団していただきたいです。



創設時の音楽監督である辛島光義先生

別府大学吹奏楽団が創設20年を迎えました。創設には大分県の音楽指導に尽力されてきた辛島光義先生(故人)が音楽監督に就任し、第1回定期演奏会ではサクソ奏者の須川展也氏を客演演奏に迎え、NHKのドキュメンタリー番組でも取り上げられるなど華々しいスター

トを切りました。熱心な指導に加え、楽器など演奏環境の整備にも自ら奔走した辛島先生は、学生たちとも気さくに向き合いながら、楽団はその土台を着実に築いていきました。その志は、2013年に音楽監督に就任した安部えつ子准教授へと受け継がれます。学生の主体性と協調性を重んじる温かな運営スタイルが定着し、団員たちは互いに教え合い、選曲や演奏会運営も自分たちの手で進めるなど、自主的な活動を重ねてきました。そして迎えた創立20周年の記念定期演奏会では、歴代の卒業生・OB・OGを含む約100名がステージに集結。地域イベントや学校間連携へと活躍の場を広げながら、世代と地域を結ぶ音色を未来へ響かせています。



地域連携



地域資源を有効活用

～梨に未利用なし！商品開発に向けて～



フィールドワークでは梨生産者との意見交換を実施



学生が考案した梨の繊維と芯を使用した練り味噌



成果報告会では製造工程やポイントをプレゼンしました

伝統溢れる 「第24回田染荘御田植祭」で 地域の文化を体験！



早乙女衣装に扮した学生



昔ながらの形式で田植えを体験



別府大学からは計39名が参加

本学発酵食品学科では、一般社団法人ユフィズム、由布市と連携して、梨の未利用部分を活用した商品開発に取り組んでいます。

大分県有数の梨産地である由布市庄内町で、生産者の高齢化や農家数減少やオフシーズンの売上低下などの課題があり、本連携事業は由布市が掲げる未利用資源の活用による付加価値創出という方針のもと、新たな商品の研究開発に取り組むことにより、地域資源の有効活用と地域産業の活性化につなげることを目標としています。

2025年10月に梨園および一般社団法人ユフィズムを訪問し、収穫作業や加工工程について理解を深めるフィールドワークを実施しました。

2026年2月には一般社団法人ユフィズム、一般社団法人ユフト、由布市役所、大分県庁、ならびに梨事業に関わる笑竹堂の関係者を本学に招き、成果報告会を実施しました。

学生は梨の未利用部分（梨の皮、芯、果汁を搾った後に残る繊維など）に着目した7つの商品について提案し、地域関係者と意見交換を行いました。

2026年度は成果報告会で提案された商品をもとに、商品化に向けた取組を進めています。

2026年5月14日史学・文化財学科で「専門演習Ⅰ」・「発展演習Ⅰ」を履修する学生及び古代・中世史研究室に所属する学生（史学・文化財学科、大学院）19名に加え、田染景観保全支援隊（田植えボランティア）9名、「世界農業遺産体験演習」の学生11名の計39名が参加しました。

専門演習Ⅰ・発展演習Ⅰおよび古代・中世史研究室の学生は、本学名誉教授の飯沼賢司先生の解説のもと、都甲八幡社や金宗院跡地など都甲地区の巡検を行い、地域の歴史や文化について理解を深めました。

一方で、世界農業遺産体験演習の学生は、地域に残る磨崖仏の見学を行い、地域資源の魅力に触れました。

見学後、学生たちは伝統的な「早乙女衣装」や「田植男衣装」に身を包み、地域の方々とともに泥だらけになりながら田植えに取り組みました。実際の農作業を通じて、文化的景観としての田染荘の価値や、地域に受け継がれる農の営みを体感する貴重な機会となりました。参加した学生からは、「初めての田植えで貴重な経験となった」「地域の方々と交流できて良かった」といった感想が寄せられ、学びと交流の意義を実感する機会となりました。



Be-News 高大連携 の取り組み

大学と高校の連携で探究を支援 ～卒業論文を活用した講演を実施～

2026年4月28日大分県立安心院高等学校において文学部司書課程の工藤邦彦教授が「調査・研究の進め方と論文作成の方法」をテーマに講演を行いました。本講演は、本学と同校との連携事業の一環として実施されたもので、学生が

執筆した卒業論文2編を具体例として紹介しながら、研究の進め方や論文作成のポイントについて解説しました。生徒たちは熱心に耳を傾け、ワークシートにも積極的に取り組むなど、探究活動への高い意欲を示していました。



大学の学びとキャンパスライフを体感 ～三重総合高校生が大学見学～

2026年7月7日大分県立三重総合高等学校の3年生11名が大学見学を行いました。全体会では学科の特色や学びについて説明を受け、授業内容や学生生活に関する質問を通して理解を深めました。その後、附属図書館や授業風景を

見学し、在学生との交流も実施。さらに学内に設置されていた七夕飾りに願い事を書いて参加するなど、本学の雰囲気や大学生活を体感する貴重な機会となりました。



模擬授業と吹奏楽団交流を通して大学の魅力を体感 ～多彩な学びと交流を通して進路への理解を深める～

2026年7月16日大分県立芸術緑丘高等学校2年生34名が来学し体験学習を行いました。全体会では本学の学びの特色や取得できる免許・資格、卒業後の進路について説明を受け、その後は「芸術」「福祉・心理」「国際経営」「調理・

栄養士」「保育・幼児教育」の各分野に分かれて模擬授業を受講しました。午後には本学吹奏楽団との交流会や学内見学を実施し、大学生活や教育環境への理解を深める貴重な機会となりました。



I 事業の概要

学校法人別府大学第3期中期計画の4年目となる令和7年度は、建学の精神のもと、4つの重点項目（教育力の強化、地域連携の推進、組織ガバナンスの強化、経営基盤の強化）の達成に向け、事業計画の実施に積極的に取り組みました。

令和7年度は、看護学部の開設、学生総合支援機構の設置に加え、別府大学附属博物館および大分香りの博物館が登録博物館に認定されました。また、文化庁が推進する「日本遺産サポーター登録制度」において、「日本遺産サポーター大学」に全国で10校目、西日本の私立大学としては初めて登録されるなど、これまでの教育研究や地域文化への継続的な取り組みが高く評価された年となりました。

①教育力の強化
大学・短期大学部では、学生への個別面談を積極

的に実施して教員間で情報を共有し、必要に応じてカウンセリング等の指導・支援を行うなど、修学指導の充実を図りました。カリキュラムにおいては、引き続き「GPS・Academic」を活用して教育効果を測定・評価し、教育方法の改善へとつなげています。また、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度「リテラシーレベル」の再認定を受けたほか、短期大学部では副専攻制度を新設し、「データサイエンス副専攻」を設置しました。

②地域連携の推進
県内の一般社団法人、企業、自治体等と連携し、地域課題をテーマとした活動を展開しました。公開講座や講習会、地域での報告会を開催するなど、フィールドワークによる学生の実践的な学習を推進するとともに、地域課題の解決に貢献しました。

③組織ガバナンスの強化
令和7年4月1日の改正私立学校法の施行に伴い、寄附行為をはじめとする関係規程の整備を行いました。これにより、ガバナンス体制の

強化、監事の職務体制の明確化、および監査機能の強化を図りました。

II 財務の概要

④経営基盤の強化
学校経営の安定化に向けて一定水準以上の定員充足率を確保するため、志願者や入学者の動向を分析し、新たな募集戦略の構築に取り組みました。また、自己収入の確保や経費削減に向けて、補助金の獲得、学納金の見直し、法人における資産運用の見直し等について検討を重ね、その一部は令和8年度より導入しています。

「事業活動収支計算書」は、企業会計における損益計算書に相当し、本法人における令和7年度のすべての事業活動収入および事業活動支出の均衡状況を示しています。

令和7年度は、すべての収支状況を反映した基本金組入前当年度収支差額が119百万円、特別収支差額を除いた経常的な収支バランスを示す経常収支差額が124百万円と、いずれもプラスとなり、健全な財務状況を維持しています。

また、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計の△105百万円を差し引くと、当年度収支差額は14百万円となりました。これに前年度繰越収支差額345百万円と基本金取崩額9百万円を加え、翌年度繰越収支差額は368百万円となりました。

財務比率では、第3期中期計画で掲げた目標のうち、経常収支差額比率（経常収支差額／経常収入）は目標値5%以上に対し2.3%、人件費依存率（人件費／学生生徒等納付金）は目標値93%以下に対し、103.8%と、達成できませんでした。一方で、人件費比率（人件費／経常収入）は、目標値60%以下に対し、53.7%となり、達成しました。

※詳細は別府大学ホームページをご覧ください。

事業活動収支計算書				(単位:百万円)		
科 目		予算 (A)	決算 (B)	差異 (B・A)		
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,785	2,786	1	
		手数料	44	46	2	
		寄付金	36	36	0	
		経常費等補助金	1,694	1,739	45	
		付随事業収入	368	385	17	
		雑収入	112	148	36	
	教育活動収入計		5,039	5,140	101	
	支出	人件費支出	2,906	2,891	△15	
		教育研究経費支出	1,849	1,809	△40	
		管理経費支出	575	555	△20	
		徴収不能額等	7	5	△2	
教育活動支出計		5,337	5,260	△77		
教育活動収支差額		△298	△120	178		
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	179	244	65	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	
	教育活動外収入計		179	244	65	
	支出	借入金等利息	0	0	0	
		その他の教育活動外支出	0	0	0	
	教育活動外支出計		0	0	0	
	教育活動外収支差額		179	244	65	
《経常収支差額》		△119	124	243		
特別収支	収入	資産売却差額	0	31	31	
		その他の特別収入	7	7	0	
	特別収入計		7	38	31	
	支出	資産処分差額	15	43	28	
		その他の特別支出	0	0	0	
	特別支出計		15	43	28	
	特別収支差額		△8	△5	3	
予備費		10	0	△10		
基本金組入前当年度収支差額		△137	119	256		
基本金組入額合計		△228	△105	123		
当年度収支差額		△365	14	379		
前年度繰越収支差額		345	345	0		
基本金取崩額		105	9	△96		
翌年度繰越収支差額		85	368	283		

(参考)			
事業活動収入計	5,225	5,422	197
事業活動支出計	5,362	5,303	△59

学校法人別府大学
教育研究振興資金の募金について

令和7年度別府大学教育研究振興資金にご寄付いただきました方々に厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を込めて、ここにご芳名を掲載させていただきます。なお、ご芳名の公表を希望されない方につきましては掲載しておりません。

【令和7年度】 (令和7年4月1日～令和8年3月31日)

〈 個 人 〉	赤峰 勝也 様	首藤 英治 様
	江良 耕一 様	未安 崇士 様
	大在 紀 様	高橋 直文 様
	河野 学 様	田原 英敏 様
	北村 征爾 様	小田 智加 様
	藏古 幸裕 様	長濱 政博 様
	黒木 博 様	成重 典行 様
	古賀 信一郎 様	廣末 和昭 様
	齊藤 恭成 様	藤野 喜代治 様
	貞岡 上司 様	森宗 郁美 様
	佐藤 智恵美 様	

〈 法 人 〉 株式会社ARDA 様
有限会社ルーフレック 様

(五十音順) ※教職員を除く

INFORMATION

日出町と別府大学が
インターンシップ協定を締結

―地域行政を学ぶ新たな機会創出―
2026年4月22日、24号館5階520会議室において、別府大学・別府大学短期大学部と日出町とのインターンシップに関する協定調印式が執り行われました。本学では近年、公務員志望の学生が増加し、多くの卒業生が自治体で活躍している一方で、行政実務を体験的に学ぶ機会に限られていました。本協定は、学生が地域行政の現場において実務や課題解決のプロセスを直接学ぶ機会を提供し、職業理解の深化と実践的な能力の養成を図ることを目的としています。今年8月には5名がインターンシップに参加。地域社会への理解を深めるとともに、主体的なキャリア形成を推進しています。



篠崎悠美子氏(別府大学元教授)
に名誉教授の称号を授与

2026年6月18日篠崎悠美子氏に名誉教授の称号が授与されました。篠崎氏は、平成11年より約27年間にわたり、美学・美術史学科、芸術文化学科、国際言語・文化学科、大学院文学研究科の指導教員として教育に尽力され、日本画およびその修復を専門として豊富な経験を活かし、美術作品の修復・保存に関する実践的かつ専門的な教育に大きく貢献されました。



【快拳】大分県初！「宮里綺さんが
熱波師(アウフグース)日本一を
決める大会に出場！」

2026年4月5日、熱波師の技術を競う「Aufguss Championship Japan 2026」九州大会が熊本市で行われ、人間関係学科の二宮里綺さんが出場し、大分県代表として初出場ながら個人枠3位に入賞しました。6月に横浜市で行われた日本選手権では、強豪が並ぶ中トップバッターとして出場、惜しくも入賞には至りませんでした。が堂々とした演技で観客を魅了しました。



「SDGsのこともっと知ろう！
もっと考えよう！」
SDGs月間を実施

本学では、2026年6月1日～30日まで「SDGs月間」を実施しました。「SDGsのこともっと知ろう！もっと考えよう！」をテーマに、日出町でのフィールドワークや講演会、玖珠町での意識調査提言活動、学内啓発展示などを展開。授業と地域連携による実践的な学びを通じて、学生がSDGsへの理解を深め、地域社会の課題解決に向けて主体的に考え行動する機会となりました。



編集後記

Be・News 133号をご覧いただきありがとうございます。
この春、編集担当になりました。フラ
ワーッシーです。

防災特集の編集中に「令和8年熊本地震」(令和8年7月28日)が発生いたしました。

このたびの地震により被災された皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。被災地の皆様の安全と、一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

今年、東日本大震災から15年、熊本地震から10年という節目を迎える年であり、本誌では改めて「防災」を特集しました。

東日本大震災が起きた当時、私はまだ小学生でした。学校帰りにテレビで見た光景は幼かった私には現実の出来事とは思えず大きな衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えています。

また今回は、学生広報ウィングルムの皆さんと一緒に福岡市民防災センターを訪れました。災害には人ひとりが防災を意識し、正しい知識と「自分の命は自分で守る」という考えを持つことが改めて大切だと感じました。

また、編集集中に発生した令和8年熊本地震は防災の大切さを改めて実感する出来事となりました。

近い未来、南海トラフ巨大地震が起こることも予想されています。

今一度、「防災」について一緒に考えてみませんか？



Be-Museum



《翠槽》

平山 愛華 (文学部 国際言語・文化学科 芸術表現コース 令和7年度卒業制作)

五島の海を題材に、重なりや光沢や質感で流れや溜まりと水底の多様な表情と、
海から得られる安心感を表現しようと制作した。

(油彩・ミクストメディア S100号 170×170cm)

**Be-Newsは
HPでもご覧いただけます。**

Be-Newsへのご意見ご要望がございましたら、
下記までご連絡をお願いいたします。

別府大学・別府大学短期大学部 広報室
〒874-8501 大分県別府市北石垣82

TEL : 0977-66-6262
E-mail : koho@nm.beppu-u.ac.jp



H P



Instagram



Facebook